

平成22年5月12日 PQEST 会長挨拶

本日は、管路品質評価システム協会の第5期定期総会の開催にあたりまして、会員の皆様方におかれましては、ご多忙の中、多数のご出席を賜り、厚くお礼申し上げます。総会の開会にあたり、最近の諸情勢と協会活動との関連等について申し上げて、私からのご挨拶とさせていただきます。

皆様ご承知のとおり、昨年は衆議院選挙で民主党政権となり、普天間移設をはじめとしまして様々な問題が世間の目にさらされることとなりました。世界的には不況は一段落して株式市場も徐々に回復の兆しを見せていますが、私たちの生活としましては、なかなかその実感がないというのが皆様方の本音ではないかと存じております。

さて、このような社会情勢の中、私共の業界が深く関係しております下水道をはじめとする管路施設におきまして、その老朽化は着実に進行しております。先に述べましたような社会不安が増大しようとも、せめて、最低限、安全・安心な暮らしを守るために、限られた財源内で、如何に合理的で有効な維持管理を行っていくかということが、我々に与えられた非常に重要な課題となっております。

新政権になり、従来の公共投資も、国庫補助から交付金という形になりました。お手持ちの「あらましー社会資本整備総合給付金（仮称）についてー」をご覧くださいませてもおわかりのように、これは従来の「事業別採択」から「全事業の計画をパッケージで採択」するところに特徴があります。よって地方公共団体は交付金の使い道に自由度が増す事になります。

事業別に見ますと、下水道をはじめとしますストックマネジメントの予算は、どちらの方向に行くかは未定ですが、この資料の中盤にございます「整備計画のイメージ」の3ページ目をご覧くださいませると、水の安全・安心基盤整備の例として「下水道事業を基幹事業とした整備計画のイメージ（老朽管の改革の推進）」が紹介されております。ここでは、「新設」ではなく「ストックマネジメント」にスポットライトが当てられていることがおわかりになると思います。

また同じくお手持ちの「国土交通省成長戦略会議の重点項目について」をご覧ください。この資料は6月に国家戦略室から発表される「成長戦略」の土台となる国土交通省としての資料です。全体としましては、PFI、PPPの様な【包括民間委託】を増やしていく傾向にあるようです。ここには、道路のストッマ

ネジメントに関しましては言及しておりますが、残念ながら下水道については書かれておりません。しかし、4月の22日に国家戦略室が国交省に対し、この資料についてのヒアリングを行った際に、下水道のストックマネジメントについても言及したほうが良いのでは、とのコメントがなされた模様です。実際に国家戦略室の成長戦略構想には、詳細までは決まっておりますが、ストックマネジメントの項目が入るそうです。

このような状況のもと、本協会では、発足当初から、管路の品質を定量的・合理的に評価し、総合的に診断するシステムの必要性と、これを維持管理計画に盛り込んでいくことの重要性を訴えて参りました。具体的には、劣化診断・内径診断・機能診断・経済診断のそれぞれについて要素技術を提案し、それらの有効性に対する認知度を高め、また、これらの要素技術を併用した総合的診断の効用についてアピールを行ってまいりました。

したがいまして、今こそ、このタイミングを利用して、事業体ごとの特徴ある長寿命化計画の中に、我々の提唱する管路品質評価システムを導入することができれば、長寿命化支援制度が目指す、予防保全での維持管理を前提としたアセットマネジメントが可能となり、長期的な観点でのコスト削減につながるものと考えます。

これをきっかけとして、管路更生の信頼性がさらに向上し、種々の管路更生工法が長寿命化の実現のために積極的に用いられる方向が期待されます。この観点からも、品確協の特別会員でもあるピケスト協会にとりましても、老朽管における更生の要否を判定するための品質評価や、あるいは更生管の品質を評価するための方法として、我々の掲げる品質評価システムが適用される可能性を広げるものであり、今後が大いに期待されるところであります。

このように、社会情勢の厳しい現状におきましても、ピケスト協会にとりましても、目指す方向に明かりが見えていないわけではありません。今こそ、会員の皆様方と知恵を出し合って、現状を打開する努力を続けていきたいと存じます。

昨年度のピケストの活動としましては、本日もご紹介があるかと存じますが、劣化診断技術につきましては、検査ロボットがさらに進化しておりますし、内径診断に関しましては、内径変形検査ロボットを農水省との官民連携事業としまして更なる用途開発を目指しております。一方で、ピケストのワーキンググ

ループの活動が、品確協の取り組みの中で非常に貴重な役割も果たしています。このようにピケストは、継続的な活動を続けて参っておりまして、引き続き会員の皆様方と力を合わせて新しい内容にもチャレンジをしていきたいと存じております。

特に、新年度につきましては、引き続き、技術面での充実を図る一方で、会員の全ての皆様方が、本協会に所属されていることのメリットを実感していただけるような取り組みに力を入れてまいりたいと思います。

たとえば、営業展開の戦略に関して、会員の方々相互での情報交換、あるいは連携体制について議論の場を設けることもひとつかと思えます。また、総合管路診断のため複数の要素技術を組み合わせたメニューの提示、アセットマネジメントを実現化するためのツールとして利用する方向を明示するなど、ソフト面からのアプローチについても具体的なアクションを起こしていきたいと考えています。

いずれにしましても、会員皆様相互で意識の共有化と、強力な連携をはかることによりまして、本会が活性化しますますの発展するよう、会員の皆様方からのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

至って簡単ではございますが、会長挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。